

2021年6月25日第72回運輸政策セミナー
「ワクチンパスポート・トラベルパスを巡る最新の動向」
宿利会長開会挨拶

皆様おはようございます。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

さて、本日のセミナーでは、「ワクチンパスポート・トラベルパスを巡る最新の動向」について取り上げます。

本日のセミナーは、かなり急いで企画をし、皆様を開催のご案内をいたしましたので、通常のお知らせ期間に比べてかなり短いものになってしまいましたが、にもかかわらず、1千名を超える多くの皆様からご参加の申込をいただきました。誠にありがとうございます。

さて、まず最初に、私どもの問題意識を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を証明する「ワクチンパスポート」やPCR検査による陰性等を証明する「トラベルパス」は、特に国際移動手続の円滑化に大きく資するものであるため、EUが7月1日からデジタル証明書を制度化するなど既に欧米では取組みが進んでいるところです。

一方我が国では、報道によれば政府において紙のワクチンパスポートの導入が検討されており、また、大手航空会社が参加するトラベルパスの実証実験も行われておりますが、ワクチンの接種や安価で手軽なPCR検査の普及と同様に、我が国は他の主要国に比べて明らかに後れを取っています。加えて、国民や企業との情報の共有や、オープンな検討・議論が未だに十分とは言えない状況です。

ワクチンの接種を完了した方やPCR検査の陰性者の証明制度を速やかに構築し、実施に移すことにより、ビジネス目的や観光目的の方々が海外渡航を安全にかつ円滑に実施できるようになることは、我が国の経済・社会活動を徐々に正常な状態に戻していく上で極めて重要であり、急務であると考えております。

当研究所としては、このように社会的ニーズが大変高く、かつ喫緊の課題であるこの問題につきまして、社会全体で情報を共有し、検討や議論を加速していくための一助となるように本日のセミナーを開催することとした次第です。

さて、本日は、まず米国のワシントン国際問題研究所の中川次長・主任研究員から、特別報告として、米国におけるワクチンの接種やウイルス検査の状況を含め、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックから米国がどのように回復しつつあるのかについて、最新の情報を報告します。

次に、一般社団法人日本渡航医学会の大越理事から、PCR検査やワクチン接種と国際移動の現状に関し、非感染証明やワクチン接種証明等への要請と手続円滑化のためのデジタル健康証明について講演していただきます。

続きまして、世界経済フォーラム第四次産業革命日本センタープロジェクト長及び慶応義塾大学医学部の藤田特任准教授から、世界中で導入に向けた動きが進められている、ICTを用いた「デジタル健康証明書」の最新状況について講演していただきます。

さらに、当研究所の客員研究員で、全日本空輸株式会社の常任顧問でもあります藤村研究員から、デジタル健康証明とその統合的なソリューションについて、航空業界の視点からの課題や要望を交えて講演していただきます。

その後、当研究所の山内所長がコーディネーターとなり、報告・講演者4名の皆様に交えてディスカッション・質疑応答を行います。

本日のセミナーが、ワクチンパスポート及びトラベルパスの内外の現況及び課題、今後の見通しや方向性等についての理解と考察を深める上で、ご参加いただきました皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございます。